

大賞

大きなこえでつたえたいありがとう

私立長野日本大学小学校*一年 篠崎 諄子

ようちえんのとき、わたしはおはなしをしませんでした。おうちでは、いっぱいおはなしをしていたけれど、ようちえんのせんせいやおともだちとおはなしをするのがはずかしかったからです。

わたしは、ひかりせんせいが大すきです。ひかりせんせいは、わたしがほいくえんとうちえんにいたときに、五ねんかんたんになでした。やさしくて大すきだったけれど、わたしがそつえんするときに、いっしょにようちえんをそつえんしてしまつたのです。ひかりせんせいは、まいあさ、

「おはよう。」
といつてくれます。わたしは、おはようのことばのかわりに、せんせいにぎゅうつとします。おはなしをしないわたしに、せんせいはいろいろなくふうをしてくれました。にこにこがおとこまつたかおのカードをつくってくれました。うれしいときには、にこにこがおのカードを手つだつてほしいときには、こまつたかおのカードを見せてじぶんのきもちをわかつてもらえるようにしてくれました。はずかしがらずにおはなしできるように、あさせんせいと二りだけのおはなしタイムをつくってくれました。はつぴょうかいやおたんじょうかいで、みんなのまえでいっしょにことばをいってくれました。

ほんとうは、せんせいやおともだちとたくさんおはなしをしたかったけれど、ほちようきを

つけているのがはずかしかったので、みんなとはほとんどおはなしできませんでした。

けれどそつえんの日がちかづいてきて、みんなとあそべる日がだんだんすくなくなってきました。だから、がんばって、せんせいやおともだちのおみのそばで、小さいこえでおはなしを試してみました。わたしがしゃべると、みんなは、「ともちゃんがしゃべつた。」

と大きわぎです。ちよつびりはずかしかったけれど、うれしかったです。はじめて、

「ごようなら。」
のあいさつをこえにだしていったとき、ひかりせんせいは、

「ともちゃんすごいね。」

と、いつもよりつよくぎゅうつとしてくれました。一ねんせいになつてからのわたしは、小学校のせんせいやおともだちとたくさんおはなしをしています。小学せいになつたのでおはなしをがんばつたら、学校がもつたのしくなりました。みんなのまえで、大きなこえではつぴょうできるようにもなりました。ひかりせんせいがいまのわたしを見たら、びつくりするとおもいます。だから、ひかりせんせい、わたしのことを見にきてください。ようちえんのときにはいえなかつた、

「ありがとう。」
をたくさんいいたいです。